

第2回岩手県自転車活用推進計画アドバイザー一会議 議事全文

1. 日時

令和8年2月13日（金）午後2時00分から4時00分まで

2. 場所

岩手県公会堂 2階 26号室

3. 出席者

別添出席者名簿のとおり

4. 議事

- (1) 第2期岩手県自転車活用推進計画（案）について
- (2) 今後のスケジュールについて

5. 配布資料

- ・次第
- ・出席者名簿
- ・配席図
- ・岩手県自転車活用推進計画アドバイザー一会議設置要綱
- ・前回会議議事概要
- 【資料1】第2期岩手県自転車活用推進計画（案）
- 【資料2】第2期岩手県自転車活用推進計画（案）について
- 【資料3】今後のスケジュールについて

6. 会議結果（構成員からの主な意見）

（1）第2期岩手県自転車活用推進計画（案）について

- ・事務局から資料2について説明。

○宇佐美座長

説明ありがとうございます。説明に苦労しているところがあったなという気がしています。特に、整備と設置の言葉を変えたところが結構苦しんでいたんじゃないかなと。構成員の皆さんも首をかしげているところがありました。改めて、前回と今回の主旨の違いってところを伝えてもらえるといいかなと思います。

○事務局（道路環境課／佐藤）

今お話しいたきました、指標のところですね。広域サイクリングルートの整備の資料のところまでございまして、前回提示させていただきました、岩手県サイクリングルートの指標ですが、前は「路面標示・案内看板が設置された」という表現にしてまして、渋谷先生からのご指摘だったと思います。案内看板が一つ設置されたらカウントするのかなというような話でして、その設置というニュアンスが誤解を招くような形もありましたので、今回は「整

備された」と表現を変えたところをごさいますて、その裏には、一本設置したとかそういった、我々がそのように考えているものではないというような形で整備という表現にしたのですけれども、先程ご説明させていただきましてとおり、案内看板とか路面標示が、サイクリストが迷いやすい変則的な交差点だとかあとは危険箇所だとかそういったところを洗い出しておりますので、そういった区間を、優先的に整備を進め、それらが整備されたあかつきに、1市町村とカウントにしたいと考えています。

○宇佐美座長

主旨自体は十分理解しているつもりなのですが、言葉で見るときに、前と同じことが起こらないかなと思っています。行政だと、この整備と設置の意味合いは、いま説明にあったように、違うといったところあるということなんですよね。それを皆さんから見てどうですかというところが気になってしまうところかなって。その辺りの主旨はしっかりこう、見える形にするとかあってほしいと思います。

続けて、今回入った13ページ目のスライドの施策のところの、自転車通勤推進企業なんですけど、どういう風にすると認められるみたいな、いま言葉でしか説明されていなかったと思うので。パッとみると簡単そうに見えるけど、意外とやると、もしかしたら厳しいのかなとか思ったりします。

○事務局（道路環境課／佐藤）

今、お話をいただいた自転車通勤を推進する企業団体に対する制度の宣言プロジェクトの取組を国土交通省の方で進めているところをごさいます。少し説明が不足していたところがあったと思いますので補足します。こちらの宣言プロジェクトの企業数団体数ですが、認定される条件としては、まず一つが、その企業の営業所だとか本社だとかというのは問わず、企業に駐輪場が整備されているということが一つ。それから通勤時の保険ですね。保険への加入を義務とすることを条件としている企業ですね。あとは交通安全の教育を年1回以上実施している企業ということで、それらがクリアされますと宣言企業に認定されるということです。認定企業につきましては、ランクが2つございまして、先程の3つの条件をクリアしますと、宣言企業に認定されます。更に、その中でもより厳しい条件をクリアしたところが優良企業というものにランプアップするというような制度です。我々としては、宣言企業の企業数を県内でも増やしていきたいと考えているところです。

宇佐美先生とこの間お話しさせていただいたんですが、制度自体を知っている企業が少ないのではないかなと認識していますので、まずはその周知徹底から進めていければと思っています。

○宇佐美座長

ありがとうございます。それこそ優良企業になってくると100人以上通勤、自転車で通勤するとか、全従業員の2割とか、結構大変なところになっているけど、県内に事業所がある企業も優良企業として結構いるなっていうのが見えているところです。両方の宣言企業優良企業のしっかりアピールして、こういうのが大事なんだよって。結果として5つというところも大事ですが、そもそもこういう制度の主旨とかそういったところをしっかりと広めていただけるといいかなと思います。これはあくまで最低ラインであって、5企業・団体に達したら満足とかではないんですかね？

○事務局（道路環境課／佐藤）

はい、そのとおりです。全国の都道府県を見ますと、静岡県庁がこちらの宣言企業団体の方に認定されているということもありますので、周知する立場として、岩手県庁もなんとか認定していただけるように進めていければなというふうに思っております。

○宇佐美座長

はい。では皆さんいかがでしょうか。お願いします。

○今野構成員

説明ありがとうございました。13ページで、自転車通勤推進企業の指標について、施策5番の他の交通機関と連携した自転車移動環境向上の推進のところに含まれているということですが、こちらの中身でいくと、自転車通勤の促進というところで健康増進や環境というキーワードが入っているように目についたので、施策6番の方にすべきだったのかなと思ったのが一つです。

それから、設置と整備はご説明いただいたのですが、この文章だけでということであれば、詳しい説明を加えていただけると分かりやすいと思いました。

最後に、サイクルトレインのところ、本文を読ませていただいたのですが、本文の66ページの中に、サイクルトレイン実施への支援のところがあって、これは鉄道事業者に対して支援を行いますとされているのですが、沿線の自治体向けの支援とっていて、我々事業者に対する支援ということを前提にサイクルトレインをやることは文脈上、違うのかなと思いました。この記載については検討をお願いしたいなと思いました。

○宇佐美座長

いまの3番目のテーマは、前回の会議でも鉄道事業者に対してどういうところを求めるかとかっていう発言もあったかと思っていて、駅なんかを見ていると、全部全て施設を鉄道事業者にやってもらう場合もあれば、市町村と組んでやってたりとかっていうところもあったりするわけなので、たしかに鉄道事業者に対してだけだとよく分からないってところなんです。3つありましたけれども、回答をお願いします。

○事務局（道路環境課／佐藤）

いまの3つ目のお話しのところから。66ページのサイクルトレインの実施支援というところで、たしかに鉄道事業者に対し、という記載をしているところですが、ご意見のとおり市町村向けのという形にもなるかなというところもありますので、こちらについては記載内容を再度確認させていただきたいと思います。

○宇佐美座長

いまの鉄道事業者って言葉を消せばいいのかっていうと、それとももしかしたら違うのかなと思ったりしています。

○事務局（道路環境課／佐藤）

そうですね、鉄道事業者に加えて、市町村に関することも両方の視点で書かないといけないのかなと思います。

○宇佐美座長

ただ、もちろんそうしたときに、どういう役割を担うかとかは意識しないといけないところを整理すべきだと思います。

○今野構成員

鉄道事業者としてサイクルトレインを推進という立場かということそれは少々違って、やはり地元の自治体などの行政の皆様が自転車の活用を推進するという中の一つの考え方において、我々のような鉄道事業者も調整みたいなところに入ってくるのだらうなと思います。最初から我々事業者に対して支援をしていくってというような文脈でいくと、我々としてサイクルトレインについて思案していないところに急に支援ってというのは違うのかなと思うので、まずは地元の自治体や行政サイドでそういう取組をするということを考えた中で、じゃあ事業者とどういうことができるか検討する中で岩手県さんがサポートをしていくみたいな文脈であれば地元の自治体さん向けの取り組みとしてその中で鉄道事業者と関わり方はこうだよ、みたいな形になるのかなと思います。実際の鉄道の車両や駅がそういうことを想定して作っている訳ではないので、色々な課題もあって確認しないといけないこともございます。その中でどういうサポートをするか、といった書きぶりであれば読まれる方も理解が及ぶと考え少し発言させていただきました。

○事務局（道路環境課／佐藤）

先程もう一つお話しございました設置と整備の話があったかと思うのですが、こちらについては少し説明がほしいということで、お話しをいただきましたので、こちらは計画本文だとかそういったところで先程の事でお話しはさせていただきましたが、その辺が少し見えないというお言葉をいただいたので、もう少しこの計画を見たときに分かりやすい形で対応できればと考えています。

○宇佐美座長

目標と施策の位置関係はいかがでしょうか。

○事務局（道路環境課／佐藤）

先程の宣言プロジェクトの企業数団体数のところにつきましては、国の方の計画で目標の3番というところがございまして、自転車交通の役割拡大による、良好な地域の移動環境の形成という目標が掲げてございまして、その中に自転車通勤推進企業宣言プロジェクトの宣言企業団体数というものが盛り込まれていたということで、そちらに合わせる形で今回3番移動環境に入れさせていただいたというところでございます。

○宇佐美座長

そうすると、施策5の言葉を変えた方が良くかもしれません。この指標でいくとするならば、他の交通機関と連携したって、連携しなくてもこれは関係ない話なので、連携したというのならばやっぱり連携した何かが指標で来るべきだと思うので。

○事務局（道路環境課／佐藤）

そうですね、たしかに施策5番、他の交通機関と連携した自転車移動環境向上の推進とあるので、そこと見比べるとということですね。

○宇佐美座長

もちろん連携しているものは絶対あると思うんですよ。鉄道駅まで自転車乗ってだとかは当然あると思うので。ただ、例えば、岩手県庁でやったという時に電車でそのまま帰る人とか相当いると思うんですよ。

○事務局（道路環境課／佐藤）

連携したというよりは、自転車移動環境向上の推進のところが重要になってくると思いますので、こちらについては表現を再度検討したいと思います。役割拡大というところが大きなポイントではありますけども、今の指標のところと見比べたときに違和感があるかなと思いますので、再度検討します。

○宇佐美座長

目標って言葉を見ているときはそうかと思うんですけど。それではここまでの中身の検討をお願いします。

○白澤構成員

環境パートナーシップいわての白澤でございます。よろしく願いいたします。まず施策に脱酸素を明記されたということで、感謝を申し上げます。ありがとうございます。本文の3ページの(1)気象の状況のところでごさまして、岩手県の特徴として冬期間の積雪や凍結による危険性について書かれていますが、施策のところ十分に反映されていない感じなのかなと思います。積雪期間の対応について追記をお願いしたいということがございます。

あと本文の68ページでございますが、自転車通勤の促進というところがございます。通勤手当や限度額があって、各企業法人にあると思いますが、最近は環境手当があるということでございます。企業の自転車通勤手当だと誘導策として良いなど、良い方法がないかとか、そういうことを検討していただければと思います。

○事務局（道路環境課／佐藤）

ご意見ありがとうございます。先ほどお話しございました、北国特有の条件である積雪の意見、それから通勤手当のお話しということで、庁内の関係課を含めて何か対応できないかというところは共有させていただきたいなと思います。ありがとうございます。

○宇佐美座長

ちなみに、岩手県庁って自転車通勤手当はどのくらいですか？ちなみに20数年前だけれど他県の公立高校勤務していた時は、自転車通勤は月2,000円でした。何気に結構自転車は消耗するので、それぐらいの金額は結構ありがたいと思いました。今はどうか分かりませんが。

○事務局（道路環境課／鈴木）

制度をしっかりと覚えていないのですけれども、私も自転車通勤してまして、私は、家から3kmくらいの距離を通ってまして、いくらかもらっていると思います。

○宇佐美座長

他県でやっていたら、岩手県ももやってもおかしくないですね。他いかがでしょうか。

○成島構成員

ありがとうございます。説明いただいた資料で本編の方の1ページというか主旨のところですが、自転車を活用してというところは良いのですが、そもそもマイカー社会、行き過ぎたマイカーから自転車にしませんかというところが主旨なのではないかと私は勝手に思っているのですが、あまりそこが記載されていないと、とにかく自転車を使いましょうという風にしか読めなかったんですね。そうすると我々も鉄道とかバスじゃなくて自転車にしましよとか、歩くよりも自転車が良とか、何かそういう風に曲がって見る人も出てきてしまうと、何の目的なのかなど、もう少し書いていただいた方が良いのかなと思いました。鉄道会社だからという言訳ではないのですが、できれば、電車、バスも歩きもうまく使っていければなと思っています。すみませんまとまりがなくて。

○宇佐美座長

たしかに、全ての交通手段をうまく選択して使えるのが一番良い状態だということだと思いますが、その中でいまさっきの連携のところだとかうまく説明できていないような所があると思うんですけど、本当はバス・自転車・鉄道だとか、僕だったら車に自転車積んで移動するときもあります。改めてですが、文章自体を作ったときの意図みたいのところからお話しいただいて、いま成島さんからいただいたものを関わった時にどう感じていらっしゃるか事務局のいまの考えをお聞かせいただけるとありがたいなと思います。

○事務局（道路環境課／佐藤）

ご意見ありがとうございます。たしかに最初の出だしのところから「自転車は・・・」と始まるような文章になってまして、自転車に特化した計画かなと改めて感じた次第でございます。たしかに宇佐美先生も仰ったように、理想は他の移動手段、電車バス徒歩等それらがうまく選択それから連携という話がありましたので、こちらの文章は再確認しつつ、ご意見いただいた内容を付け加えるようにできればと思います。

○宇佐美座長

ありがとうございます。結構スペース的には良い感じで収まっているところなので、この文章量でどう変えていくかという腕の見せ所かと思います。はい分かりました、よろしくお願ひします。

○盛合構成員

岩手県サイクリング協会です。今回の岩手県自転車推進計画の大まかな内容に関して、特に私としては良いのかなと思っています。ただサイクリストの立場からしますと、例えばサイクルスポーツ振興の推進で、目標値2,500人、やっぱりこれは少ないじゃないかなと思います。県内で開催された自転車関連の大会ということで羅列していただきましたが、記載されたもの以外も、実は多くのサイクリイベントが個人的に開催したり、観光協会とかで開催したりとかそういうものを含めると更に数が増えるのかなと思います。なのでこの目標値の人数に関してはちょっと少ないかなと思いました。

サイクルスポーツ振興に関しまして、例えばイベントが道路の使用許可が必要な大会のみにするとか、そういう区切りがなくただ単に自転車を使って走ったよというものであれば、この目標値はすぐ超えることができるのかなと思います。現状で岩手県のサイクルスポーツ

に関して、横の連携がまったくない状態で、各々の大会がそれぞれ独立して行われている現状でして、これを横のつながりができるように、県内の3つのヒルクライム大会と陸前高田のツールド三陸のこの4つの団体でいま連携して動こうという動きになっていまして、そこに他の団体が加わってくればちょっと面白くなってくるのかなと思います。

あとサイクルトレインに関してですが、私たちは常に使いづらいなと思っています。実は2012年にイタリアの鉄道で自転車を乗せようと思って、輪行袋という自転車を詰める袋に自転車を入れて乗せようと思ったら駄目と言われそうになって、手荷物扱いでお願いしなすと伝えたら乗せてもらえました。現状は去年行ったときは、全路線サイクルトレインできるようになっていました。各車両に自転車をおけるスペースがありました。2両に1両、自転車をおけるスペースがあったり。そういう風に十数年でガラッと変わってきて驚きました。是非、日本も似たような環境になってくれれば、自転車と鉄道の組み合わせが非常に便利になっていいなと思いました。観光振興に関してですが、岩手県広域サイクリングルート検討会議の時もお話しさせていただきましたが、バイクホテル、いわゆる自転車で旅行する人たちの為に使いやすいホテルっていう、例えば必要なのが、例えば自転車を部屋に持ち込めたり、自転車を整備する道具があったり、そういうものでバイクホテルという資格を与えれば自転車で旅をする人たちに自転車旅で嫌な思いをせずに宿泊できるというもの観光振興の一つになるのかなと思います。

今回、観光協会の方はいらっしゃらないですけども、色々細かいところでの話で申し訳ありませんが、そうなってくればいいなとサイクリスト目線で思いました。

○宇佐美座長

ありがとうございます。まず最初の2,500人よりもっとというところに関しては前回の議事概要の方でも意見は出ていたところでした。渋谷先生はそもそもコロナの前2,000人というところだったという訳なので、少なくともその水準を維持すべきだという意見が出ていたりだとか。そもそも自転車関連の大会でと言っていますが、これ主旨としては別に大会でなくても色んな親しむ機会とか、ポタリングとかで全然良くて。そしたら6,000人、8,000人といったようにも多くの人数が期待できると、これまでもお話ししていたところでした。コメントお聞きできますか、今のところで。サイクルトレインは、海外の場合は公的機関自身がお金出して運営を営んでいるところが大きなところとして。ベルギーなどはもう20年以上前からサイクルトレインをしていいいます。さっき、僕が鉄道事業者のところは消さないんですかとか、消すんですかとか言った主旨としては、まさにそういうサイクルトレインが、こうやってプラスαになる何かサービスを鉄道事業に加えていこうとしたときに、鉄道事業者さんがやれる環境を、やろうと思う環境を作っていくことができるようになって、そういったところにお金が出て欲しいということです。これは鉄道事業者にまず最初に頑張ってもらおうという話ではなくて、みんなと話し合っ、こうやっていくのが良いよねだとかになったときに、自治体はこういうところにお金を出してとかいうか、県はこういうところにお金を出してとか、色々実現に向かえば良いなど。そういうニュアンスでしゃべっていたというところですね。今の段階でお返しできることがあればお願いします。

○事務局（道路環境課／佐藤）

順番が前後しますが、まず観光振興の方で盛合さまからお話しいただいたバイクホテルということでございまして、広域サイクリングルート検討会議の時にもお話しいただいておりました、我々としましても、受け入れをしやすい、部屋に持ち込めるようなホテル・旅館があれば良いと現在考えているところであり、昨年度までには他県に視察に行って、こういうホテルがあるんだということは実際に目にしてきたところでございます。その後旅行会社さんを通じて色々ご意見を伺っているところです。

今年度作成したサイクリングマップにも一部、宮古市の「みかわ旅館」さん等を記載するなど、まだ大々的に持ち込んで良いとしている宿泊施設は少ないですが、旅行会社等と連携しながらこういった形で進めていけば良いかというところは意見交換をしながら検討していく予定でございます。宿泊施設の方々からは、旅館のなかに持ち込む際のスタンドがあるのですが、そういった物品を、例えば県側で準備したり、補助的なものがあると我々もやりやすいなというお声をいただいております。その辺をどのように我々がお手伝いできるかというところを検討していくということでございます。我々が使える予算は、主にハード面ですので、ソフト面で、民間の宿泊業者に備品を購入して貸し出しするのか、お渡しするのかは別として、そういった制度をつくって行くことができれば良いなと考えています。

それからサイクルスポーツの話で、盛合さまから横の連携がないというお話しをいただきました。今回広域サイクリングルートを令和6年3月に設定したところでございまして、担当課が中心になって進めているところですが、現在沿岸の公所に工事を発注していただく準備をしておりますし、実際に工事をしたあとは沿岸の各場所、それからそれを維持管理していただくのも、これからは出先の公所というところで、横の連携をまさにこれからつないでいきたいなと思いますし、ハードだけでなくソフト施策ですね。我々は県土整備部ということで、土木の部分を中心なんですけれども、そういった観光の部局であるとか、出先のイベント、沿岸エリアでありますのはみちのく潮風トレイルに火がついておりますけれども、そういったところの地域振興観光振興を担っていく部署と連携しながら進めていきたいなと考えています。

それから先程のサイクリングイベント等の参加人数のところは、様々なご意見をいただきまして、パブコメでの意見ですとかアドバイザリー会議での意見があった中で、我々的には現実的のところを見据えた形で、今回増加率という表現をさせていただきました。それを第1期計画と同じような現実的のところを加味して設定させていただいたところはあるのですが、指標の人数のところを変えるのは難しいところではありますが、目標人数にとらわれることなく進めていければなと思っているところです。

○事務局（道路環境課／鈴木）

最後に佐藤が申しましたけれども、指標2,500人というのは据え置きさせていただきたいのですが、2,500人を最低超すということで、その2,500人とらわれることなく計画していきたいと思っておりますし、盛合さんが仰ったように、ここに載っていない我々が把握していないイベントとかもあると思うんですね。そういったところを細かく拾っていけるようにして、計画が終わるときには4,000なり数字上カウントできていると良いなということで進めていければと思います。

○宇佐美座長

まさにそれを言おうと思っていたところでした。なのでさっきの宣言企業数とか同様にそれを基準に目指していますよというところではいいのではないかなと。でこれみると具体的なイベントとか道路環境課主催とかそういうのも小さいやつも入っているんで、どんどん集めてもらって。それをみんなに見てもらえるようにして。例えばこんなの良いねとか思ってもらえればいいかなと思います。他いかがでしょうか。

○橋上構成員

三陸鉄道の橋上と申します。サイクリング協会さまが、先程サイクルトレインということで触れていたんですけども、実はですね令和6年度から7年度にかけての倍以上の利用者がありまして、昨年の11月には県の関係の方に乗っていただいたイベントの他にですね、こちらの情報を踏まえて福島の方とか三陸鉄道が乗れるらしいということですね、1泊2日で岩手県のルートをずっと走っていただいたこともありますし、その問い合わせも私の方で直接ご案内させていただいた方だけでも十数名くらいはありましたので、他の部分に継続していただくのが非常にありがたいなと思っておりましたから、是非とも広域サイクリングルートの中に三陸鉄道が走っているというのも大事ですけども、岩手県とか沿岸の部分ですけど、鉄道と絡んで一緒にどうぞという話をさせていただくことがまた、地域にお金を持ってくるところがありますので、是非それを検討していただきたいと思います。

○宇佐美座長

ありがとうございます。今回のことは三陸鉄道がルートに入っているということがすごい大きなところだと思っていて、あの区間だけ三陸鉄道に乗ってもらえるのは良いか思っていることでも全然なくて、乗りたい人は乗ってくださいみたいな。で更にその先の自転車、サイクリングルートを使ってもらえればなと思っておりますので、今後とも利用しやすい環境づくりを三陸鉄道さんの方でも是非進めていただけると助かります。お願いします。

○新田構成員

よろしく願いいたします。観光振興の中の方に、サイクルステーションの記載がありますが、道の駅が含まれていないエリアもありますので、年1回ですが駅長会とかブロック会議がありますので、そういった場面でサイクルステーションの説明をいただき、駅長会の中でもそういう部分の連携をしていきたいなと思っております。ただ、サイクルステーションに登録している施設との情報共有があまり無いものでして、そういう部分で連携的な仕組みをあわせて一緒に整備していかないといけないと思います。道の駅にサイクリストは来るんですが、離れたところに点在しているサイクルステーションとも上手く連携したいと思います。あと、ポイントカード的なスタンプ、サイクルステーションの連携のためにも色々な体験型も含めて活動したいと思います。

確認ですが、レンタサイクルが各道の駅でいうと、車で移動した方がそこで観光するという周遊目的のレンタサイクルがあるのですが、こういうのも自転車利用に含まれるという考えでよろしいでしょうか。そこも取組んでいきたいなと思っておりました。要望というよりは一緒に活動していきたいなというような提案でございます。よろしく願いします。

○宇佐美座長

ありがとうございます。県の事務局の中でも、ここがサイクルステーション薄いよねってところはもう理解されているところですよ。その中で道の駅ってどうですか？道の駅で限って見たときに。

○事務局（道路環境課／佐藤）

県内の道の駅には、まだサイクルステーションに登録されていないところもありますので、我々からお話しをさせていただいて、申請していただけるように取組んでいきたいと思っておりますし、新たにできる道の駅の中では、あらかじめ自治体の担当者と調整しているパターンもあります。今年度であれば道の駅「もりおか渋民」たみっとですが、オープンに合わせて登録しました。今後、申請されていない道の駅は全て取り込めるようにしていきたいと思っておりますし、新田様が仰って下さったコミュニティ的な連携も進めていきたいと思っております。それからスタンプラリー等のお話しもいただきましたので、是非今後一緒に取組んでいければと思います。また、先程、橋上さまの方から三鉄との連携の話がありました。我々も三陸しおかぜルートの中に三鉄活用区間ということでお示ししておりますので、今後も継続的にイベント等を通じて連携を図っていきたいと考えてございます。

○宇佐美座長

駅長会議がある時とか、うまく情報を提供したり、一緒に行ったりとか。ぜひ仲間を増やしてもらえればと思います。ありがとうございます。

○白澤構成員

小さいことで申し訳ないのですが、13 ページの自転車通勤推進企業に認定されるとメリットというのは、勉強不足で申し訳ないのですが、どういったものがあるのでしょうか。脱炭素で例えて言うてですね、省エネ家電で買くと補助金が 50 万出て、エアコン買えますとかそういった補助金制度があるのですけれども、こちらの方は自転車を購入すると補助金が出ますみたいなことはないのでしょうか。

○事務局（道路環境課／佐藤）

はい、ありがとうございます。国の制度の HP を見る限り、認定がなされますと HP に公表して、この企業はこのような取組をやっていますよというような紹介がなされるというようなどころまでは確認をしているところです。

○宇佐美座長

ホームページを見ると、ロゴマークを付けていくらいしか書いていないですね。

○事務局（道路環境課／佐藤）

そうですね。ロゴマークが付いて企業のイメージアップにつながるというような形のようにございますが、それがもう少し国の方でも、現在 90 数社ですか、ということでまだまだこれから発展していく制度なのかなということございまして、例えば別の認定制度があるかと思っておりますけれども、例えば県の土木系の工事を発注したときにプラスで加点されるとか、そういったプラスの何らかのメリットが国交省さまの方で広がりを見せていけば、より制度

の認知度が高まったりとか取組む企業が増えたりとかするのかなと思っているところではございますが、現時点でメリットという部分では少ないかなと思っています。

○宇佐美座長

今の話で思ったんですけど、どれくらい脱炭素ができていくのかとか可視化しても良いんじゃないかなと思いました。

確認ですが、16 ページ目のスライドのところ、県管理道路における自転車通行空間の整備延長をいま 150km で出していますけど、下の施策 2 のところで他の市町村のネットワーク計画を作ったときはこの数値を変えるのか。今これはどうやって出ているのか。

○事務局（道路環境課／佐藤）

現在はお話いただいたように市町村の計画しているネットワークの計画の延長プラス広域サイクリングルートの整備の延長でお示しをしまして、先生の仰るように計画が策定したら、そのネットワークの部分も母数としては入ってくるので、そこは要検討かと思います。

○宇佐美座長

ただ 5 年の中ですべてできるかと言ったら設定内容によるよね。

○事務局（道路環境課／佐藤）

そうです。途中で計画をまた見直すかは、どうすべきかと思いますが。

○宇佐美座長

そもそも 150km の意味合いとして、他の町がやったからもし増えた部分あったらそれもカウントするんだろうけど、それって元々の考え方からすると違うのかなと思ったりして。どう捉えるのかなというところはちょっと疑問だったりして。

○事務局（道路環境課／佐藤）

150km と設定した際には、現在の近年の予算規模についても勘案してございますので、予算規模も大きくなれば整備できる延長数も若干結構増えていくのかと思いますが、読めない部分もございます。

○宇佐美座長

分かりました、ありがとうございます。他よろしいでしょうか。

○佐々木構成員

ありがとうございます。前は欠席ですみませんでした。今資料 2 の 19 ページを見ながら頭を悩ませておりました。本当に計画を作っていただいてありがとうございます。厚い方の本文の 11 ページ、13 ページ辺り見てます。私の立場ですと健康づくりということになり、私が言うとおかしくなるのですが、人って運動しないんですよ。

そもそも運動しないのに、かつ自転車を使って運動しろってことがむちゃくちゃハードルが高いのかなと。正直私たちの現場ではあるんですよ。本文の 13 ページの国勢調査でいくと、通勤通学で 6.5%、11 ページは県民調査でするので通勤だけじゃなくてサイクリングも入れると 8.5%と幅がありますよね 11 ページの方が。これだけにすれば納得しますし、もち

ろん母体の個数の取り方の違いがあるのでやむを得ないと思いますが、これが現状だろうなと感じました。

一方で私の子供たちもクロスバイクとかロードバイクが流行ってきています。うちの学生たちも乗っているんですよね。彼らは格好いいからとか移動するのに必要だから自転車に乗っているのであって、運動したいから自転車に乗っているわけではないはずです。なので自転車を乗らなければならないような環境をどうにか作らないといけないかなと思いつつ、今まで聞かせていただいております。

今後、人が減る時代なので実数が減ってくる、%でしか示せないと思いますが、もう少し岩手県といっても広いですよね。もうすぐ県南は春になりますけど、県北はまだ冬だったりするとか、エリア毎とか、年代によって全然運動の習慣とか、動きの時間数が全然違うので、あと性別も男と女で、女性の方が絶対やらないんですよ。それをやりだすと大変なことになっちゃうんですけど、まるっと8.5%とか6.5%という数字は丸めた数字ではあるのですが、もう少し細かく見ることができれば、もう少し対策しようということがあるのではないかなと思って聞きました。言おうか考えたんですけど、そこをもう少しやると、年代だとか、こういう地形でこういう対策をするといいいじゃないかとか、具体的な対策が取れるのではないかなと思いました。

最後にひとつ。これも私が言っちゃうとおかしいのですが、運動って一人でやってると駄目なんです。誰かと運動したほうが健康に良い。たくさん研究で分かっているんで、自転車一人で走ってねとか通勤してねというメッセージじゃなくて、誰かと通勤しようとか誰かとサイクリングしようとか、もしくはサイクリングした後にちょっと話そうとか、そういう一人でやればいいという乱暴なメッセージにはなってほしくないなと思ってコメントさせていただきました。貴重なお時間をありがとうございました。それではよろしくお祈りします。

○宇佐美座長

ありがとうございます。僕は色々な町に行くのが好きだから、一人で自転車で勝手にブラブラ周るとかあるんですけど、たしかにサイクリング協会やっているイベントでも、サイクリストのみんなの中で仲良くおはようサイクリングとか。いまでも覚えているんですよ。すごい昔精力的にされていたなって、なのでそういう仲間づくりは大事なところだと思っております。最初の方の本文11ページのところは、これきっと県でデータ持っているんですよ。属性を下の部分でできる限りで見せるというのはそんなに難しくないかなと思ってますので、是非やっていただけると良いかなと思います。

○事務局（道路環境課／佐藤）

ありがとうございます。属性につきましては、この調査自体が県のスポーツの部局の方で調査したと思いますので、その部局の方にお話を聞いてみたいと思います。あとは一人ではなく誰かとやるのが大事という話をいただきましたけれども、我々もイベント、今年度開催していましたが、様々な自転車が好きな人に限らず色々な方が来てくださって色々な想いを聞かせていただきましたので、みんなでわいわい楽しくやっていければなと思いますし、皆様と連携しながらやっていくことで、また色々な知恵をいただきながら新しいイベント等を開催できればと思ってございます。ありがとうございます。

○宇佐美座長

余談なんですけど、自転車関連の飲み会で出会った人たちのおかげで、鉄道のイベントで喋る機会が出るとかそんなこともあったりして。こういう人の出会ってすごい色々なところにまたがって、全然自転車だけじゃなくて。ここでは自転車ってことでやっていますが、ここから自転車以外に派生することも十分あると思うので。仲間づくり、自転車に限らず仲間づくりのところは今後大事にしていきたいなと思います。ありがとうございました。

○盛合構成員

岩手県サイクリング協会の盛合です。自転車に関する交通事故の目標については納得して、その中で重篤な事故にならないようにヘルメットの着用を推進されている訳ですけども、岩手県は全国平均より低いのが今の現状でして、他の自治体でヘルメット購入に補助金を出すということをやっている自治体が結構あるのですが、補助金を出して、自転車のヘルメット着用率が上がるのかどうかという調査なんかをしていただければ面白いなと思っております。なにしろ高校生、私岩手県宮古市なので、岩手県沿岸部の高校生でヘルメットを着用している高校生は本当に少ないです。学校の方から強制的な指導ができないと思うのですが、やはり転んだだけで頭を打つという確率が高いので、是非ヘルメットの着用は推進していただきたいと思います。よろしくをお願いします。

○宇佐美座長

自転車で亡くなる原因、圧倒的トップは頭部損傷、これはよく知られていると思います。だけれどもこう自分はそうならないという思い込みはすごくあるわけで。そこは本当に何とかしなければいけないところなんです。一つ疑問に思うのは、岩手県としては自転車条例をもって、ヘルメットだったり保険だったりというところはやっていると思うのですが、ただそれが教育委員会の方にちゃんといっているかというところはどうなんだろうと思ったり。もうちょっと学校側で県立高校であったり、他で市町村とかになるけど、中学校小学校とか、特に県立高校だけどういうところでもっと強められないものなのかなと。日頃から不思議に思っていて。その辺りどうでしょうか。

○事務局（道路環境課／鈴木）

昨日、交通系の会議に出席して、その後に自転車部会というのがあり、教育委員会の方と警察の方も参加している会だったのですが、高校生の着用率が一番悪いらしいんですね。中学校とかほぼ 100%なんですけど、高校生は着用率が最も低くて。更に警察が街中で調査しているやつ見ても、更に下がるみたいなので通学のときは被っているんだけど、それ以外のときは被っていないんじゃないかとかですね、そんな話も出ていました。その中で、今度青切符の制度も始まるということもありまして、これまでは高校の方にヘルメットのお話をすると校長先生は生徒の自主性に任せるといって校長先生がほとんどだということをお話されてきました。ただ、それではいけないということで、来年度というかこれからもっと強く言っていこうという風に思っているということ、それから全ての高校で講習、警察が行う講習を受けるようにお話ししていくということも仰っていましたので、そういったところに期待していきたいなと考えております。あと自転車通学をする生徒に対して、中学生とかは多分義務化されていると思うので、それで 100%だと思うのですが、高校の自主性って言って

いたところを義務化していくということを進める話も出ていましたので、これでまた着用率が上がればいいなと期待しております。

○宇佐美座長

息子がいま大学生になりましたけど、大学生になってもちゃんとつけていますけどね。

○成島構成員

全員が被るもんだと義務付けしていただかないと多分無理なのかなと思うし、特に女子生徒は絶対被らないですね。校則で違うほうみたいに、被っていないやつがダメという話をしないと難しいのかなと。その時に髪型が乱れないような余裕のある大きさのものか、若い人もいるのでどうなのかなと思うのですが被りますか？

○宇佐美座長

(ゼミ生に対して) 自転車乗る人いますか？

○宇佐美座長のゼミ生

大変申し訳ないのですが、ヘルメットは被っていませんね、持ち歩くのに大変だったり、髪はあんまり気にしないですけど、髪型が乱れたりとかであったりすると思うので、やっぱりその義務化しないと広がっていかないのかなとあると思うので、あとはルール付けとかそういうのができればいいと思います。

○宇佐美座長

大学はそもそも自転車通学っていうより自転車シールを貼るのはやっていないんですけど、少なくとも高校はやっているはずなので、それを果たすための一つにヘルメットは必ずするっていうところとか、高校はやれそうなんじゃないかな。大学もやれそうと僕は思っています。やらないだけであって、そこは本当に進めていかないといけないですね。当たり前環境を作っちゃえばいいわけですよ。逆にヘルメットする方が当たり前じゃない環境になっていることが問題かなと思います。

○新田構成員

情報共有です。遠野市内では、遠野高校サッカー部が、どういう規則でやっているか分からないのですが、髪型を気にする男子生徒が、サッカー部なんですけどヘルメットを被ってまして。市民から見ると、高校生がちゃんと被っているっていう認識で、それが意外と模範になっていると思まして。地域性ではあるのですが、そういう率先してやるような取組があると、なんか着けなきゃいけないと。遠野市内で、サッカーは応援するスポーツになっていますので、そういう意味でですね、周りからサポートというか認識というものがあるなということ、共有したいなと思ったのでちょっとお話しさせていただきました。

○宇佐美座長

ありがとうございます。街中で当たり前ヘルメットをしてとか、もっと言えば車道を左側通行している姿を見るだとか、当たり前になってくると違うことをやっているとすごく違和感が出てくるはずなので、この当たりの姿をちゃんと作っていくということが大事だと思います。ありがとうございます。

(2) 今後のスケジュールについて

- ・事務局から資料3について説明。

○宇佐美座長

ありがとうございます。この内容について何かご質問はございますでしょうか。

○盛合構成員

岩手県サイクリング協会です。計画のフォローアップで、毎年度実施し、県のホームページで公開とありますけど、何月ごろ毎年度公開できるのでしょうか。

○事務局（道路環境課／佐藤）

はい、毎年秋から冬にかけて公表しているというような形で進めてまいりました。極力早く公表したいところではあるのですが、指標の中には年度が明けて、そこから調査に入るとりまとめというような指標もありますので、整い次第速やかに進めていければと思っております。

○盛合構成員

分かりました。ありがとうございます。

○宇佐美座長

他ありますでしょうか。はい、お願いします。

○今野構成員

スケジュールのご説明ありがとうございました。流れとしては分かったのですが、今回の会議の中で出た皆さまからの意見であったり、多少見直しを図ったりということがあられると思うのですが、見直したものを、今回の会議メンバーに、資料送付等で共有いただけるのか教えていただけますでしょうか。

○事務局（道路環境課／佐藤）

ありがとうございます。本日いただいた貴重なご意見を参考にしながら計画の一部修正等もございますので、それらを見直した内容で皆さまに、今回出席いただいた皆さま、それから欠席された皆さまに一度目を通していただくような形で進めて参りたいと思っております。

○宇佐美座長

ありがとうございます。全体の最後は澤田さんから、うちはこれだけ頑張っているんだよって話があると思うんですけど、本当その通りで、ここまでしっかりまとめていただいて結構調整が大変だった部分もあるかと思うんです。構成員の皆さんも、重箱の隅をつつくというよりは、結構本当のところ大事だよってところで指摘いただいたかっところ、がほとんどだったと思います。それに事務局の方真摯に向き合ってくださいって、また今日もちよっと宿題残ってしまいましたけど、きつとうまく進めてくださったと思っておりますので、これをどう修正されて、また皆さんのところに来るのかなというのも楽しみにしております。

本当にここまでありがとうございました。ということで議事の方は終わりましたので、進行をお返しします。ありがとうございました。

○事務局（道路環境課／西村）

どうもありがとうございました。何かその他でございますでしょうか。

○宇佐美座長

折角なので県立大の地域協働研究の話をしませんか。

○事務局（道路環境課／佐藤）

本日、岩手県立大学の宇佐美ゼミの学生、3年生の皆さまが今日ゼミの一環として来てくださっています。今日は1名欠席ということで4名お越しいただきました。今年度共同研究ということで、岩手県道路環境課と岩手県立大学の宇佐美先生のゼミの方ですね、一年間協働研究させていただいているところです。今年度末にかけて成果をまとめていただいて、その後、発表の機会を設ける予定にしています。その発表の際には、学生の皆さんからまとめていただいたお話を聞いていただきたく、構成員の皆さまにもお声がけをできればと考えているところです。

○県立大 ゼミ生

本日は大変貴重な機会をいただき、誠にありがとうございました。サイクルトレインの話であるとかバイクホテルの話とかも、こちらとしても今後の地域協働研究の内容として考えていたところではありましたので、そういった話をたくさんお聞きすることができて大変勉強になりました。本日はありがとうございました。

○宇佐美座長

この地域協働研究の報告ってところだけではなくて、活用推進計画だったり広域サイクリングルートだったりとか、もっと広く知ってもらえるとか興味を持ってもらえるような機会にしたいと思っているので、自転車の業界では、名の知れている人を呼んだりしたいなと思っているので、時間が許せば是非来ていただければと思います。お願いします。

○事務局（道路環境課／澤田）

本日はお越しいただいた皆さまありがとうございます。自転車活用推進計画は第2期になりましたけども、次回は数年後ということでですね、またこういったアドバイザー会議を開催することになると思いますが、引き続きよろしくお願いします。ホームページに指標とか状況については毎年アップしますので、是非、忌憚のないご意見いただければ幸いです。本日はありがとうございました。

○事務局（道路環境課／西村）

会議が始まる前にスクリーンに動画が出ましたけども、実はPR動画を作りまして、岩手県広域サイクリングルートって検索していただくと素晴らしい映像が出ますので紹介します。

なお、事務連絡が一つございまして、本日の会議の議事録につきましては、事務局でとりまとめた上で、後日構成員の皆さまに確認いただきまして、県のHPで公開させていただきます。

-----動画視聴-----

ありがとうございました。いまのが1分バージョンですね。あとショートバージョンもございますので、是非皆さま力作をご覧ください。それでは、これもちまして本日の会議を終了いたします。皆さまどうもありがとうございました。

以 上